

特別企画展 モータースポーツのまち・鈴鹿発～世界へ羽ばたくSUZUKAの歴史～
新時代への始動-ホンダ初の4輪市販車「T360」について

「モータースポーツのまち」と称される本市の原点は、1960年に「スーパーカブ」の生産拠点として「本田技研工業株式会社鈴鹿製作所」が開業したことに端を発します。その「ホンダ」は、翌年のマン島TTレースで、参戦3年目にして2クラス1位から5位までを独占する快挙で初優勝を果たし、世界で1番の2輪メーカーであることを印象付け、国際規格の「鈴鹿サーキット」の建設を実現しました。

まだ各家庭にテレビや洗濯機があることも珍しかった時代、1963年5月には第1回日本グランプリ自動車レースが鈴鹿サーキットで開催され、同年7月には国内初の高速道路（名神）が開通するなど、モータリゼーションの波は、国主導の国際競争力強化に向けた業界再編の流れに向かっていきます。

そのような中、4輪業界への進出を急ぐ「ホンダ」は、当時では珍しいスポーツカー由来のDOHCエンジンを採用した常識破りの軽トラック「T360」を同年8月に発売。さらに、同年10月にはスポーツカー「S500」を販売し、わが国のスポーツカー時代が幕を開けました。

当時の「ホンダ」の全製作所を巻き込んだ「T360」、「S500」の分散生産体制は、決して効率的といえるものではありませんでしたが、ここでの苦労は様々な経験を積んだ人材を育成し、後の鈴鹿製作所でのスムーズな4輪車生産にもつながったと言われています。

本市の基幹産業の一つである自動車産業やモータースポーツが100年に一度の大変革期を迎える中、スポーツカー時代につながるホンダ初の4輪市販車が誕生した1963年から60年を迎える今年、先見の明を持ち、皆が知恵を出し合い誕生した「T360」を特別展示することで、「モータースポーツのまち」としての成長・発展の軌跡を共有し、新しい時代を切り拓くキッカケとします。

●展示車両：ホンダ T360 ※詳細別紙参照

●展示期間（予定）

令和5年6月21日（水）～11月30日（木）



展示車両（同型） 昭和38年頃の様子

●展示場所：市役所本庁舎1階 市民ロビー（モータースポーツ振興コーナー）

●主催：鈴鹿市

協力：ホンダコレクションホール

ホンダモビリティランド株式会社鈴鹿サーキット

NPO法人鈴鹿モータースポーツ友の会

【事務担当】 鈴鹿市産業振興部 商業観光政策課

山本・後藤

電話 059-382-9020（直通）